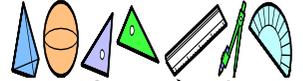




校長室だより



新年 あけましておめでとうございます

年が明け、新しい年の令和7年（2025年）が始まりました。気持ちも新たに、本校教職員が一丸となって、令和6年度の締めくくりである3学期の教育活動を行ってまいります。保護者のみなさま、どうぞ今までと変わらぬご支援、ご協力をお願いします。

2025年は干支でいうと「乙巳（きのとみ）」の年になります。「乙」には植物が成長し広がっていくような意味があり、柔軟性や協調性を象徴し、周囲との調和を保ちながら自身も目標に向かって進んでいく力を表しているそうです。また、「巳」はもちろん蛇の意味です。へびは古来より豊穡や金運を司る神様として祀られており、また脱皮をすることで表面の傷を治癒していくことから医療、治療、再生のシンボルともされています。

乙巳（きのとみ）である今年は、多くの人にとって成長と結実の時期となる可能性が高い年になるそうです。

本校も、学力向上を中心に今まで取り組んできたことが実り、子どもたちが生き生きと毎日を過ごせるような、そんな一年になるようにしていきたいと思っています。

「子どもの話」をよく聞きましょうと言われますが・・・

子どもと大人の間には「ズレ」がよく生じてしまいます。それぞれの年齢、経験、歴史が違うので当然なのですが、大きなズレの一つに、「子どもの話を聞いているか」という件があります。私たちもよく陥ってしまうのですが、大人が聞きたいことだけを聞いてしまっていて、子どもが「自分の話したいこと」を聞いてもらえていないという状況になってしまっているのです。

我々、教師はどうしても「教えたい」という思いが強すぎて、こんなことも伝えたい、あんなことも知っておいてほしいと教えることにどん欲になっていきます。ですから授業でもその傾向が強くなってしまったり、私たちがしゃべりすぎないことを強く意識して授業づくりをしています。子どもの声がたくさん出てくる授業の方が「よい授業」です。こんな授業を作っていくためには、いくつかの仕掛けを施します。授業のはじめのところでいかに興味付けをする、教師からの問題提示（発問といいます）を子どもがじっくり考えられるようなものにする、さらには子ども同士が対話するような学習形態を用いる、などがあげられます。

「子どもの声」を引き出す心の余裕と環境

さて、お家ではどうでしょうか。子どもの声がたくさん出てきているでしょうか。大人が忙しいとついつい「お小言」や「説教」が多くなってしまい、子どもが話し始めるまで「待てない」ことになります。

また家庭の環境でも子どもの声が出てくるかが決まってきます。常にスマートフォンを持っている状況では、子どもが話をするきっかけができていくものではないです。スマホも触らず、テレビもつけずに、何も無い「暇な状態」にすることで、子どもが言いたいことを声に出し始めるようになっていきます。

子どもが言いたいことを声に出す、少し意識して環境整備と「待つ」意識を持ってもらえたら今までと違った親子関係になっていくのではないかと思います。